

1.  $S^2 := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3 \mid |\mathbf{u}| = 1\}$  の向きが,  $\mathbf{n} : S^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$ ,  $\mathbf{n}(p) = p$  で与えられているとする.  $U_z^+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z > 0\}$  上の点  $p$  の近くの局所座標として,  $\varphi : D^\circ \rightarrow U_z^+$ ,  $\varphi(s, t) := (s, t, \sqrt{1 - s^2 - t^2})$  を考える. ただし  $D^\circ := \{(s, t) \in \mathbb{R}^2 \mid s^2 + t^2 < 1\}$  とする.
- (1)  $\partial_s \varphi := \frac{\partial \varphi}{\partial s}$  などと略記する.  $\mathbf{v} := \partial_s \varphi \times \partial_t \varphi$  を計算し,  $\varphi$  は向きを保つ局所座標であることを示せ. つまり, 任意の  $\mathbf{a} \in D^\circ$  に対し  $p = \varphi(\mathbf{a})$  とおくと,  $\mathbf{v}(\mathbf{a}) = k\mathbf{n}(p)$  となる  $k > 0$  が存在することを示せ.
  - (2)  $\mathbb{R}^3$  上のベクトル場  $\mathbf{V}(x, y, z) := (x, y, z)$  に対し,  $\mathbf{V}(\varphi(s, t))$  を求めよ.
  - (3)  $\mathbf{V}(\varphi(s, t)) \cdot \mathbf{v}(s, t)$  を求めよ.
  - (4)  $\varphi(D^\circ) = U_z^+$  であることを示せ.
  - (5)  $\int_{U_z^+} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S} := \int_{D^\circ} \mathbf{V}(\varphi(s, t)) \cdot \mathbf{v}(s, t) ds dt$  を計算せよ.
  - (6)  $\varphi' : D^\circ \rightarrow U_z^+$  を,  $\varphi'(s, t) := (t, s, \sqrt{1 - s^2 - t^2})$  で定義する.  $\varphi'$  は向きを保つ局所座標ではないことを示せ.

(7)  $\mathbf{v}' := \partial_s \varphi' \times \partial_t \varphi'$  とおく.  $\int_{D^\circ} \mathbf{V}(\varphi'(s, t)) \cdot \mathbf{v}'(s, t) ds dt$  を計算し (4) と比較せよ (問題 5 も参照).

2.  $S^2$  の向き  $\mathbf{n} : S^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$  は問題 1 と同じとする.  $V_+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z > -1\}$  とおき, 各  $p \in V_+$  の近くの局所座標  $\varphi : \mathbb{R}^2 \rightarrow V_+$  として  $\varphi(s, t) := \frac{(2s, 2t, 1 - s^2 - t^2)}{1 + s^2 + t^2}$  を考える (演習 8 (6/13) の立体射影).

- (1)  $\varphi$  は向きを保つ局所座標であることを示せ.
- (2) ベクトル場  $\mathbf{V}(x, y, z) := (x, y, z)$  に対し,  $\int_{V_+} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$  を計算せよ.

(3)  $\varphi(D^\circ) = U_z^+$  であることを示せ. この  $\varphi$  を使って  $\int_{U_z^+} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$  を計算し, 問題 1 の結果と比較せよ.

3.  $C^\infty$  級関数  $f : \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$  をスカラー場とも呼ぶ. 向きづけられた曲面  $S$  に対し,  $p \in S$  の近くの向きを保つ局所座標  $\varphi : U \rightarrow S$  を取って,  $f$  の  $A := \varphi(U)$  に沿った面積分を次のように定義する:

$$\int_A f d\mathbf{S} := \int_U f(\varphi(s, t)) |(\partial_s \varphi)(s, t) \times (\partial_t \varphi)(s, t)| ds dt.$$

- (1)  $\int_A f d\mathbf{S}$  は向きを保つ局所座標  $\varphi$  の取り方によらないことを示せ.
  - (2) 定数関数 1 に対し,  $\int_A 1 d\mathbf{S}$  を  $A$  の面積と呼ぶ. 問題 2 の  $\varphi : \mathbb{R}^2 \rightarrow V_+$  に対し,  $\int_{V_+} 1 d\mathbf{S}$  を計算せよ.
4.  $S^2$  の局所座標として, 演習 8 (6/13) 問題 2 の局所座標  $\varphi : U \rightarrow V$  を取る. 問題 1 の  $V$  に対し  $\int_V \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$  を計算せよ. また  $V$  の面積 (問題 3 参照) を求めよ.
5.  $(S, \mathbf{n})$  を向き付けられた曲面とする.  $p \in S$  の近くの局所座標  $\varphi : U \rightarrow S$  と  $\varphi' : U' \rightarrow S$  で,  $\varphi$  は向きを保ち,  $\varphi'$  は向きを保たず,  $\varphi(U) = \varphi'(U') \subset S$  をみたすものをとる. このとき  $\mathbb{R}^3$  のベクトル場  $\mathbf{V}$  に対し次を示せ:

$$\int_U \mathbf{V}(\varphi(s, t)) \cdot \left( (\partial_s \varphi)(s, t) \times (\partial_t \varphi)(s, t) \right) ds dt = - \int_{U'} \mathbf{V}(\varphi'(s, t)) \cdot \left( (\partial_s \varphi')(s, t) \times (\partial_t \varphi')(s, t) \right) ds dt$$

6. トーラス  $S$  の局所座標として, 演習 10 (6/27) 問題 3 の  $\varphi : (0, 2\pi) \times (0, 2\pi) \rightarrow \mathbb{R}^3$  を取る.

- (1)  $S$  の向き  $\mathbf{n} : S \rightarrow \mathbb{R}^3$  を,  $\mathbf{n}$  が  $S$  で囲まれる有界領域から非有界領域に向かうよう定義する.  $\varphi$  は向きに適した局所座標か? (ヒント: 例えば  $\varphi(\pi, \pi)$  における  $\mathbf{n}$  の向きを見れば十分)
- (2)  $\mathbf{V}(x, y, z) := (y, -x, z)$  に対し,  $\int_{\varphi(U)} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$  を計算せよ.
- (3)  $\varphi(U)$  の面積 (問題 3 参照) を計算せよ.

7. 一般に,  $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in \mathbb{R}^3$  と  $a, b, c, d \in \mathbb{R}$  に対し,  $(a\mathbf{u} + b\mathbf{v}) \times (c\mathbf{u} + d\mathbf{v}) = (ad - bc)\mathbf{u} \times \mathbf{v}$  であることを示せ. これを使って補題 75 の証明を完成させよ.

(提出の必要はありません)

補足：レポート 10 について .

$f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$  を  $C^\infty$  級関数とします . 講義の定理 53 が主張していたのは次のことです :

$$S := f^{-1}(0) \text{ 上 } \text{grad}(f) \neq \mathbf{0} \implies S \text{ は曲面 .}$$

逆については何も述べていないことに注意してください . つまり ,  $S$  上に  $\text{grad}(f)(p) = \mathbf{0}$  となる  $p \in S$  があつたとしても , そのことから直ちに「 $S$  は曲面でない」と結論付けて良いとは言っていないわけです . 定理 53 の逆が成り立たない例として , 例えば  $f(x, y, z) = (x^2 + y^2 + z^2 - 1)^2$  があります .  $f^{-1}(0) = S^2$  は曲面ですが

$$\text{grad}(f)(x, y, z) = 4(x^2 + y^2 + z^2 - 1)(x, y, z)$$

なので ,  $S^2$  上の全ての点で  $\text{grad}(f) = \mathbf{0}$  です .

レポート 10 の場合 ,  $k \neq -14$  ならば  $S$  上  $\text{grad}(f) \neq \mathbf{0}$  であることがわかるので  $S$  は曲面だと言えます . 一方 ,  $k = -14$  のときについては定理 53 は何も教えてくれないので , 別途考える必要があります . 絵を描いたりして ,  $(0, -1, -2) \in S$  の近くで局所座標が取れないことを説明しようとしている (と思われる) ものには がついていると思います .

$k = -14$  のとき曲面にならないことの (ある程度) 正確な証明を一つ述べておきます . 簡単のため問題を変えて ,  $S = \{(x, y, z) \mid x^2 - y^2 - z^2 = 0\}$  (下図参照) が曲面でないことを示します . この  $S$  は , 平行移動や拡大・縮小によりレポート 10 の  $S$  ( $k = -14$ ) に一致するので , 本質的には問題は変わっていません .  $f(x, y, z) := x^2 - y^2 - z^2$  とおくと  $f^{-1}(0) = S$  で ,  $\mathbf{0} \in S$  において  $\text{grad}(f)(\mathbf{0}) = \mathbf{0}$  になっています .

$\mathbf{0} \in S$  の近くの局所座標  $\varphi: U \rightarrow S$  が取れたとしましょう .  $\pm\varphi_1(\mathbf{a}) > 0$  となるような  $\mathbf{a} \in U$  においては  $\varphi_1 = \pm\sqrt{\varphi_2^2 + \varphi_3^2}$  (複合同順) であることから ,  $\mathbf{a}$  における Jacobi 行列は

$$D\varphi = \begin{pmatrix} -\frac{\varphi_2(\mathbf{a}) \cdot \partial_s \varphi_2(\mathbf{a}) + \varphi_3(\mathbf{a}) \cdot \partial_s \varphi_3(\mathbf{a})}{\varphi_1(\mathbf{a})} & -\frac{\varphi_2(\mathbf{a}) \cdot \partial_t \varphi_2(\mathbf{a}) + \varphi_3(\mathbf{a}) \cdot \partial_t \varphi_3(\mathbf{a})}{\varphi_1(\mathbf{a})} \\ \partial_s \varphi_2(\mathbf{a}) & \partial_t \varphi_2(\mathbf{a}) \\ \partial_s \varphi_3(\mathbf{a}) & \partial_t \varphi_3(\mathbf{a}) \end{pmatrix}$$

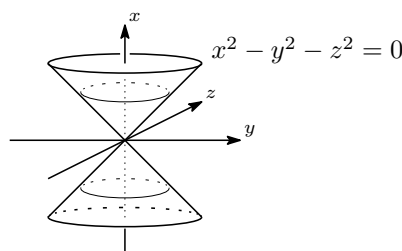
です .  $D\varphi$  は  $\varphi_1(\mathbf{a}_0) = 0$  となる  $\mathbf{a}_0$  においても連続的に定義されなければなりません , 例えば

- $\{(t, t, 0) \in S\}$  に沿って  $\mathbf{0}$  に近づくと ,  $D\varphi$  の  $(1, 1)$  成分は  $\partial_s \varphi_2(\mathbf{a}_0)$  に ,
- $\{(t, 0, t) \in S\}$  に沿って  $\mathbf{0}$  に近づくと ,  $D\varphi$  の  $(1, 1)$  成分は  $-\partial_s \varphi_3(\mathbf{a}_0)$  に ,
- $\{(t, 0, -t) \in S\}$  に沿って  $\mathbf{0}$  に近づくと ,  $D\varphi$  の  $(1, 1)$  成分は  $\partial_s \varphi_3(\mathbf{a}_0)$  に ,

それぞれ近づきます . これらの極限值は全て等しいことから ,  $\partial_s \varphi_2(\mathbf{a}_0) = \partial_s \varphi_3(\mathbf{a}_0) = 0$  です . 同様に  $(1, 2)$  成分を見ることで ,  $\partial_t \varphi_2(\mathbf{a}_0) = \partial_t \varphi_3(\mathbf{a}_0) = 0$  です .

これらのことを知った上で , 改めて  $\{(t, t, 0) \in S\}$  に沿って  $\mathbf{0}$  に近づくと ,  $D\varphi(\mathbf{a}_0) = O$  であることがわかります . これは  $\varphi$  が局所座標であることの定義に反します .

このように ,  $\text{grad}(f)(p) = \mathbf{0}$  となる  $p \in f^{-1}(0)$  がある場合は ,  $f^{-1}(0)$  は曲面になつたりならなかつたりします .  $f$  の形に応じた議論をする必要があり , 一筋縄ではいきません .



幾何入門 レポート問題 11 (2014 年 7 月 4 日)

担当 : 境 圭一

7/4 の問題 1 の状況で ,  $\mathbf{W}(x, y, z) := (y, -x, z)$  に対し ,  $\int_{U_z^+} \mathbf{W} \cdot d\mathbf{S}$  を計算せよ .

(7/11 の 3 限開始時まで提出してください)

[http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/14\\_geometry/14\\_geometry.html](http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/14_geometry/14_geometry.html)